

## 人口1人当たりの貸出冊数 埼玉県内8年連続1位

埼玉県図書館協会「埼玉の公立図書館」によると、平成27年度の県内市町村立図書館の人口1人当たりの年間図書貸出冊数の平均は5.54冊で、三芳町は11.84冊。8年連続1位となり、住民の本への関心の高さや図書館の取り組みが、地域に根付いたものであることの一端を読み取ることができます。

順位	市町村	1人当たりの貸出冊数	貸出冊数
1	三芳町	11.84	455,566
2	宮代町	10.83	367,047
3	鶴ヶ島市	8.34	585,032
4	ふじみ野市	8.00	891,351
5	小川町	7.52	231,723

## 質の高い児童サービス

図書館の職員体制は、役場職員6人、臨時職員が18人。そのうち司書資格のある役場職員2人と臨時職員4人が主に児童サービスを行っています。図書館内には児童専用の貸し出しカウンターがあり、職員が常駐しているのが特徴で他の自治体ではあまり見られません。これは保護者や子どものニーズにすぐに応えられるような配慮と、人と人とのふれ合いを児童カウンターで感じることが狙いとしてあります。

## 本を読みあう「家読」うちどく

親子・きょうだい・夫婦・家族で本を読みあう「家読」。町では絵本・紙芝居の作者を招いて講演会を開き、多くの人に本の持つチカラや魅力を伝える取り組みをしています。文字の読めない子に本だけを渡しても意味がありません。家庭で読書の習慣をつけることは大切なことです。



よみ愛・読書のまち宣言

武蔵野台地のみどり豊かな三芳町で、わたしたちは、手を携えて子どもの読書活動を推進しています。読書でつながる人の輪が広がっています。わたしたちは、読書の力を信じます。読書はわたしたちの創造力と心を豊かにし、心の扉を世界に開きます。本を読み合うことであたらしい絆も生まれます。わたしたちは、三芳町を、赤ちゃんからお年寄りまで誰もが生涯にわたり読書に親しみ、本を読み合う喜びを共有できるまちにします。本を読み合うことで人々が結びつき、愛と夢と知性にあふれた心豊かなまちとなることを目指し、ここに「よみ愛・読書のまち」を宣言します。



# 一語一絵 ホントノデアイ

「よみ愛・読書のまち」を宣言した三芳町。今月の特集は、生涯にわたり読書を楽しむことができる町をめざし、町ぐるみで取り組んでいる現場を紹介します。

☎ 中央図書館 ☎ 049-258-6464



## 昨

今、子どもは本を読まなくなっていると言われています。しかし町では長年、図書館・学校・地域で、子どもの読書活動推進に力を注ぎ、文部科学省から「子ども読書活動優秀実践図書館」として、平成14年と平成26年の2度、表彰され、質の高い図書館として評価されています。

## 毎月23日は「読書の日」

全国的に図書館を民間委託に頼る自治体が増えるなか、三芳町の

図書館は住民からなる「読書ボランティア」の支えと協力があり、地域に根付いた愛される事業を、自走して行うことが可能となっています。

より本を通じた素敵な町へ。誰もが生涯にわたり読書に親しみ読みあう喜びを共有できる心豊かな「よみ愛・読書のまち」となることをめざし、毎月23日を「よみ愛・読書の日」と定めました（平成28年4月26日臨時議会採択）。

今月の広報みよしの特集は「一語一絵 ホントノデアイ」。子どもたちへの住民の想い、ボランティアの皆さんの想いなどを通じて、読書の魅力に迫ります。

毎月23日を「よみ愛・読書の日」と定め、家庭・学校・図書館・職場・地域で、読書や読み合いを楽しむ人の輪を広げます。

親子・きょうだい・夫婦・家族で本を読みあう家読（うちどく）に取り組みます。

お話を夢中で楽しめる幼児期に、絵本や本をたくさん読んであげます。

朝読書・読み聞かせ・ブックトークで、読書に親しむ子どもを育てます。

赤ちゃんを愛情豊かに育てる家庭での読み聞かせを大切にします。

よみ愛・読書のまち宣言